

教 日本史概論

□日本史

Introduction to Japanese History

ITO Jun

伊藤 循

科目ナンバリング：DEC-2-346-01/DIB-2-431-01/DLP-2-349-01

■授業の目的及び到達目標

教員をめざす学生を対象とし、高等学校地歴科・中学校社会科の免許取得に必要な単位の修得を目的とする。高校時代に習った日本史の背景にある史料・学説がもつ重要性を理解するとともに、日本史に対する知識・理解・専門性を深め、教員に必要な学問的資質を習得することを到達目標とする

■授業計画

〔前期〕

- 1 ガイダンス。原始社会。
講義の進め方、内容などのガイダンス。旧石器・縄文・弥生時代の特質をつかむ。
- 2 古代国家の形成
古墳時代・飛鳥時代を取り上げ、日本における国家形成の歴史を考える。
- 3 律令国家の成立と展開
日本の古代国家に大きな影響を与えた律令制導入の過程を考え、その後の奈良時代の政治史について理解する。
- 4 平安期の国家
律令制が変質する平安期の国家と政治、社会の様相について考える。
- 5 荘園制と武士の発生
中世社会の指標となる武士・荘園の発生について考える。
- 6 院政の成立と平氏政権
院政の成立とその構造、そこから生まれる平氏政権について考える。
- 7 内乱の展開と鎌倉幕府の成立
治承・寿永の内乱の過程をたどりながら鎌倉幕府の成立について考える。
- 8 鎌倉幕府の展開
執権政治の成立、展開、変容と蒙古襲来の影響など鎌倉時代の流れを考える。
- 9 南北朝の内乱と室町幕府
南北朝の内乱から室町幕府の成立などこの時代の政治、社会の動きを考える。
- 10 室町幕府の展開と外交
室町幕府が全国政権になっていく過程と外交について考える。
- 11 応仁の乱と一揆の時代
室町幕府を衰退に導く応仁の乱と当時の一揆について考える。
- 12 戦国時代と蝦夷地・琉球
戦国大名の特質を考える。中世の北海道・沖縄と日本との関係をまとめる。
- 13 学期試験。前期のまとめ。
学期試験を行う。また、フィードバックとして古代・中世の解説を行い、理解を深める。

〔後期〕

- 1 織豊政権から幕藩体制へ
近世社会の起点となる織豊政権、江戸幕府と幕藩体制の成立について考える。
- 2 幕藩体制の展開と開国
幕藩体制の動揺と、開国から幕藩体制の崩壊に至る政治過程を考える。
- 3 明治政府の成立
江戸幕府を倒して成立した明治政府はどのような政権だったのか、初期の明治政府について考える。
- 4 明治前半の流れ1
明治時代前半の流れを自由民権運動などを取り上げながらまとめていく。
- 5 明治前半の流れ2
前回に引き続き明治時代前半の流れを大日本帝国憲法や初期議会などを取り上げながらまとめていく。
- 6 明治後半の流れ
明治時代後半の流れを政党政治や対外関係などを取り上げながらまとめていく。
- 7 大正時代の政治と社会
大正時代の政治、社会の様子や第1次大戦とその後の世界について考える。
- 8 昭和史(戦前)1
戦前の昭和の歴史について政治の動きを中心にとりあげ、まとめていく。
- 9 昭和史(戦前)2
前回に引き続き政治の動きを中心に昭和史の流れを概観しまとめていく。
- 10 戦後史1
戦後の民主化政策を経て、国際社会への復帰に至る時期の日本の歴史を考える。
- 11 戦後史2
高度経済成長の開始と石油ショック以後の流れから日本の歴史を考える。
- 12 戦後史3
「ブラザ合意」以後のバブル経済とその崩壊を経て現在に至る日本の歴史を考える。
- 13 学期試験、後期のまとめ
学期試験を実施する。また、フィードバックとして、近世から現代にいたる日本史の流れを解説する。

■授業の方法

受講者の意見などを聞きながら講義を進める。毎回レジュメを配布するが、授業終了時にはリアクションペーパーの記入や小問の解答、提出を求め、次の授業でフィードバックとして、まとめと前回の授業の小問の解説を行う。

■予習・復習

授業に合わせて高校日本史の教科書や提示した参考書で予習し、理解を深めておく。復習は授業レジュメや授業中に照会した文献などを読み、授業中の小問などを中心に重要な内容や要点をまとめておく。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

試験 80%、リアクションペーパーなど授業への参加度 10%、授業中毎回の小問 10%。試験後はフィードバックとして解説を行う。

■教科書・参考書

(参考書) 高校時代使用した日本史の教科書
佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年

■関連する科目

社会科地歴科教育法、公民科教育法をはじめ幅広く世界史、地理、政治、経済など社会科に係る科目。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は、千葉県私立高等学校や東京都立高等学校に36年間勤務し、日本史に関する研究実績を積んできており、それを本科目の指導に活かしていく。